

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度技術情報第13号

(イチゴのうどんこ病、炭疽病、ハダニ類の防除対策) について (送付)

イチゴの主要病害虫であるうどんこ病、炭疽病、ハダニ類の本ぼへの定植前後の防除対策をとりまとめましたので送付します。

平成21年度 技術情報第13号

1 発生状況

8月の巡回調査では、育苗ほにおけるうどんこ病の発生ほ場率が59% (過去3年20%)と高く、本ぼで多発する恐れがあります。また、炭疽病も一部の地域で発生程度が高く、子苗の潜在感染株率が高く推移しています。更に、ハダニ類も発生ほ場率が増加しています。

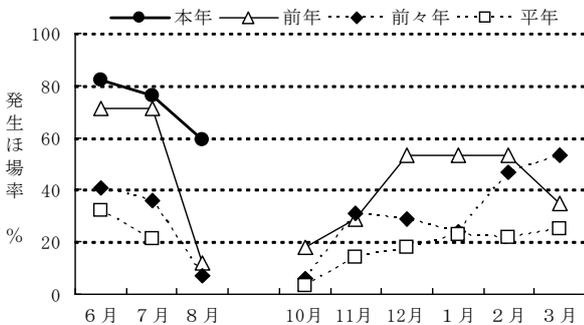


図1 うどんこ病の発生推移

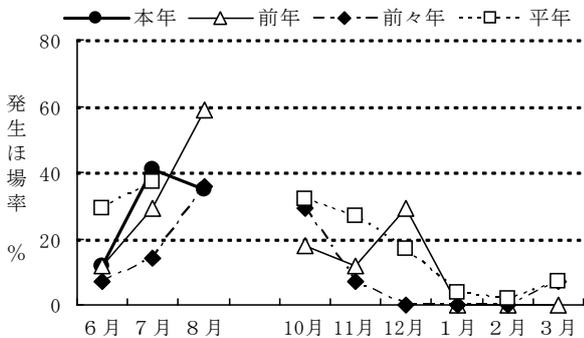


図2 炭疽病の発生推移

表1 子苗の潜在感染株調査結果(巡回調査ほ場)

地域名	調査ほ場数	8月上旬		7月上旬		6月中旬	
		感染ほ場数	感染株率(%)	感染ほ場数	感染株率(%)	感染ほ場数	感染株率(%)
日置	5	2	7	2	8	2	2
川薩	5	5	31	5	39	2	4
曾於	4	4	60	4	34	-	-
合計	14	11(79%)	31	11(79%)	27	4(40%)	3

注) () はほ場率。

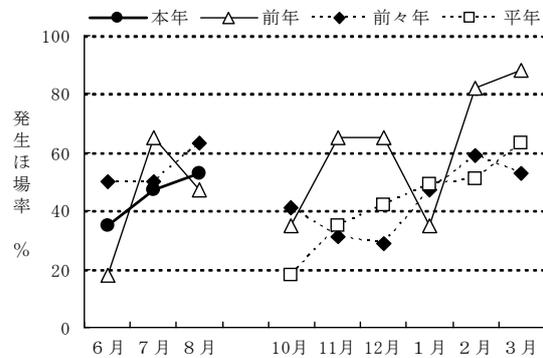


図3 ハダニ類の発生推移

2 防除対策

(1) うどんこ病、炭疽病

ア うどんこ病や炭疽病に潜在感染している株を本ぼへ持ち込まないように 定植前の防除を徹底する

イ うどんこ病は、本ぼでの発生を防止するために、古葉の摘葉により感染葉を除去するとともに、定期的な薬剤散布により徹底した防除対策に努める。本ぼ定植後は、活着時～頂花房開花前までは10日程度の間隔で薬剤散布を行い、葉での発生を抑えその後の果実における発病を防ぐ。

ウ 炭疽病の発病を認めた株は、早急にほ場外に持ち出し処分する。

(2) ハダニ類

ア 育苗後期の防除を徹底し、本ぼへ持ち込まないようにする。特に天敵を導入するほ場では、放飼前に密度を0頭に抑えるよう徹底した防除を行う。

イ 防除効果を高めるため、薬剤は下葉かきを行い葉裏や下位葉に薬液がかかるよう散布する。